

## 「事業の概要及び測量等の実施に関する説明会」質疑応答の概要 (平成21年12月17日(木)西荻地域区民センター)

本資料は平成21年12月17日(木)西荻地域区民センターで開催された「事業の概要及び測量等の実施に関する説明会」での質疑応答の概要を国土交通省東京外かく環状国道事務所が取りまとめたものです。

### 質問者

- ・ 全体での質疑応答時間が足りるよう会場の許す限り会を延長できないか。
- ・ 説明会の法的な根拠はないと聞いたが、この事業は都市計画法に沿って進めるのか、道路法によるのかなど明らかにすべきではないか。
- ・ 事業主体や整備手法はどうか。
- ・ 調査、測量業務の受託業者名、発注金額、落札率を公表すべきではないか。
- ・ 井戸調査で住民宅を訪問する際に、調査員がどこの誰かわからなくては住民は不安である。
- ・ 測量を2回に分けて実施する理由は何か。
- ・ トンネルにおいて、火災、爆発があった場合の対応はどうか。
- ・ 大深度法の申請はいつか。
- ・ 外環の集中豪雨対策はどうなっているのか。

### 回答者

(国)

- ・ 本日の説明会終了後、個別の質問に対応する時間を設ける。
- ・ 本日の説明会は、法的位置づけのあるものではない。今後実施する測量、地質調査などの内容や事業の概要について説明する目的で開催している。今後の法定の手続きについては現時点では未定である。
- ・ 2009年4月の国幹会議を経て決定した整備計画では、施行主体は、国または高速道路会社とされており、直轄事業と有料道路事業の合併施行方式で検討されていた。現在、施行主体、事業手法については検討中である。
- ・ 地質調査は4件、井戸調査は1件、測量は1件を発注する予定である。受託会社は、地質調査その1~3は応用地質株式会社、その4は株式会社エイト日本技術開発、井戸調査は川崎地質株式会社であり、測量は契約手続き中である。詳細は、ホームページの入札情報サービスで閲覧出来るように準備を進める。
- ・ 外環事務所が調査員の本人確認をした後、身分証明書を発行し、携帯させて訪問させる。1回目は、設計のための測量である。2回目は、用地取得のための測量である。なお、杉並区は大深度区間のため用地取得は行わない。
- ・ 今後、警察などの関係機関とトンネル内の危険物を積載する車両の通行制限などについて協議する。
- ・ 大深度使用の認可申請は、現地調査実施後に行うが、その時期は未定である。
- ・ ポンプなどの排水施設などについては、今後、詳細な設計を進めていく。

### 質問者

- ・ 関係権利者宛の案内状を受け取ったが、大深度が適用になっても権利者か。案内状は、7 区市、杉並でそれぞれ何通送付したのか。
- ・ 外環の供用後における大気汚染への影響はないか。
- ・ 地下水流動保全工法の実施事例において有効性を確認できるデータは無いのか。地下水流動保全工法を採用した井荻トンネルの現況はどうなっているのか。
- ・ 外環ノ 2 の検討はどうなっているのか。

### 回答者

( 国 )

- ・ 大深度地下が適用されると通常は補償すべき損失は生じないが、現在は大深度地下の使用認可申請前であるため計画線から外側約 10m の範囲内に土地を所有されている方に郵送している。開催案内は、全地域で約 8,000 名、杉並区で約 700 名に郵送している。
- ・ 大気環境への影響については、環境影響評価で予測評価しており、環境基準を下回ると見込んでいる。また、東京都の環境影響評価条例に基づく事後調査を実施し検証する。
- ・ 環境影響評価の際に地下水流動保全工法を実施した事例として 16 事例を確認している。そのうち 14 事例については「供用後から現在までに事業に起因する新たな地盤沈下や井戸涸渇は認められない、又は、地下水位が安定している」との内容に誤りが無いことを事業者を確認している。

( 東京都 )

- ・ 井荻トンネルにおいては、土留め壁を設置したときに地下水が一時的に変動したが、対策を講じ、現在は安定している。
- ・ 外環は、昭和 41 年に都市計画として定められた。都市高速道路としての外郭環状線と、幹線街路としての外郭環状線ノ 2 は、位置的には重なっているが、別々の都市計画となっている。外環ノ 2 は、現在の都市計画の幅で道路や緑地を整備、都市計画の区域を縮小して道路などを整備 代替機能確保した上で都市計画を廃止、の 3 つの方向性を基に、住民のご意見を聴きながら、都市計画としてとりまとめをしていく。

### 質問者

- ・ 測量の実施が前提となっているが、まず、住民の意見を聞くべきではないか。

### 回答者

( 国 )

- ・ 本日の説明会終了後、個別の質問に対応する時間を設ける。また、1 月にオープンハウスを開催する方向で調整するなど、引き続き測量など現地調査の内容についてご説明し、ご質問を受ける場を設け、現地調査の実施について、ご理解を頂けるよう努める。

#### 質問者

- ・ 少子化や厳しい財政状況の中で、なぜ、この時期に外環を建設するのか。
- ・ 外環道による大気環境への影響の具体的なデータを示すべきではないか。
- ・ スライドの説明が、専門用語などのためよくわからないので改善して欲しい。
- ・ 多くの人に参加できるように、説明会の曜日、時間帯などを工夫すべきではないか。
- ・ 外環ノ2の現状はどうなっているのか。

#### 回答者

(国)

- ・ 現在、国土交通省として、人口減少、少子高齢化、厳しい財政状況の中、本当に必要な道路とは何かという観点で検討している。今後の外環事業の進捗は、国会での予算審議を経て決定されるものである。
- ・ 具体的なデータについては、説明会終了後の個別での対応の場で、ご希望の内容に応じて職員がお示しして対応させて頂きたい。
- ・ ご意見を踏まえて今後の説明の仕方などを改善していく。
- ・ 1月には、オープンハウスを土日も含めて開催する方向で調整する。

(東京都)

- ・ 現時点では外環ノ2の整備方針は決まっていない。今後、皆様のご意見を聴き、都としてとりまとめる。

以 上